
永田えり子 教授

略歴と業績

略歴

永田 えり子(ながた えりこ)

【学歴】

- 1976年(昭和51年) 3月 東京都立国立高等学校卒
- 1981年(昭和56年) 3月 慶應義塾大学経済学部卒
- 1983年(昭和58年) 3月 慶應義塾大学大学院社会学研究科修士課程修了
- 1987年(昭和62年) 3月 慶應義塾大学大学院博士課程社会学研究科課程単位取得退学

【職歴】

- 東京女子大学現代文化学部助手(昭和63年4月~平成5年1月)
- 東京工業大学工学部助手(平成5年2月~平成9年4月)
- 滋賀大学経済学部助教授(平成9年4月)
- 滋賀大学経済学部教授(平成11年7月~)

【活動した学会】

- 日本社会学会 研究活動委員、学会誌編集委員、学会賞選考委員
- 数理社会学会 大会委員長、編集委員
- 国際社会学会(ISA) Finalist of 1990 Worldwide Competition for Young Sociologist

【主な委員】

- 平成17年4月~18年3月 経済学部副学部長
- 平成27年4月~29年3月 大学院経済学研究科副研究科長
- 平成30年4月~令和4年3月 評議員
-



【業績】

【代表的な業績】

- 「自由」に代わるもの」(『彦根論叢』第377号／滋賀大学経済学会／2009)
- 「道徳の合理性——他者危害原則の論理とその社会的効果」
(三隅一人(編)／『シンボリック・デバイス』／勁草書房／2004)
- 「モデルと現実との適切な距離」(今田高俊・鈴木正仁・黒石晋(編)／
『複雑系を考える——自己組織性とはなにかII』／ミネルヴァ書房／2001年)
- 「リバータリアニズムとフェミニズム」
(江原由美子(編)／『フェミニズムの主張5——フェミニズムとリベラリズム』／勁草書房／2001年)
- 「合理性と倫理性——他者危害原則のフォーマライゼーションとそのインプリケーション」
(『理論と方法』28号:261-272. (28)／2001年)
- 「公私の分離は必要か」(『社会学評論』Vol.50, No.2. / 日本社会学会／2000年)
- 『道徳派フェミニスト宣言』(勁草書房／1997年)
- 「権力なんかこわくない——権力VS主体」(藤田弘夫・西原和久(編)／
『権力から社会を読み解く——現代人の社会学入門』／有斐閣／1996年)
- 「宗教は生殖技術を語るのか」(『仏教』／1996年1月号／法蔵館／1996年)
- 「『性の商品化』は道徳的か」(江原由美子(編)／『フェミニズムの主張2——性の商品化』／
勁草書房／1995年)
- 「生命倫理と市場」(浅井美智子・柘植あづみ(編)／
『つくられる生殖神話——生殖技術・家族・生命』／サイエンスハウス／1995年)
- 「何を侵害しているのか——セクシャル・ハラスメントの倫理的な基礎」
(鐘ヶ江晴彦(編)／『セクシュアル・ハラスメントはなぜ問題か』／明石書店／1994年)
- 「ドラクエの社会学的解剖」(『現代のエスプリ』312号:52-68 / 至文堂 (312) / 1993年)
- 「正義の社会的選択」(『理論と方法』12号:45-60. (12) / 1992年)
- 「仮想現実を町おこしに利用するということの研究」
(一般財団法人 佐和山三成会 寄附金 / 2016年～)
- 「三成の戦」三成弁当の制作と配布、出演、参加、調査(2014年3月より随時)